

埼玉版お遍路 江戸期の足跡

15年かけ踏査 所沢の大館さんが解説本

弘法大師・空海（774～835年）ゆかりの寺88カ所を巡る四国八十八札所霊場（お遍路）をそっくり模した八十八霊場が、埼玉にもある。江戸時代の1812年に越生町の法恩寺山主が定めた「武州八十八霊場」だ。この「埼玉版お遍路」を元大学教授が踏査し、解説本を作った。



約15年前に武州八十八番の札所で最初に訪れたという延命寺の本堂前で語る大館さん（川越市笠幡）

順路案内書手がかり 寺の歴史探る

約15年かけて武州八十八霊場を踏査し「幻の武州八十八霊場 埼玉の古寺をたずねて」（さきたま出版会）を著したのは、所沢市に住む元帝京大文学部教授の大館右喜さん（84）。

大館さんによると、八十八霊場を各地にコピーする「写し」は、弘法大師千年忌の時期の化政・天保年間（1804～44年）に大流行し、日本各地に千件もの八十八霊場が誕生した。

四国霊場を巡る「お遍路」は険しい山川をゆく難行で、庶民には経済的な負担も大きかった。それでも「信仰心を深めたい」との要望に応えようと、各地に写しができたといい、武州八十八霊場もその一つだ。

八十八霊場の流行で、村々では遍路姿の人々を接待するようになった。



大館さんが書いた「幻の武州八十八霊場 埼玉の古寺をたずねて」

り、各地との情報交換も盛んになった。すると幕府は政治批判の流布をおそれ、千年忌が過ぎると触れ書きを出して禁止。札所は壊され、各地の八十八霊場は衰退した。

大館さんは1954年、田宮虎彦の小説を元にした映画「足摺岬」の主人公に共感し、四国の足摺岬を訪れた。帰路、札所38番金剛福寺から37番岩本寺まで遍路道を数日歩き、道端に残る小さな墓石が肩を寄せ合う姿に心を打たれた。その後、武州八十八霊場の順路案内書を見つけ、「埼玉版お遍路」をスタート。67番延命寺（川越市笠幡）を振り出しに参拝を重ね、寺の歴史や由来を調べた。

歩いてみると実態は様々で、大樹の枝が咲く延命寺、深山の大寺に庄倒された16番仏心院（越生町）、三重塔が見事な36番安楽寺（吉見町）などもあれば、明治初期の廃仏毀釈で廃寺となった寺も。今では武州八十八霊場を知る人も少なく「自分の寺が札所と知らない住職もいる」と大館さん。

高齢になり、歩くのは厳しくなるばかりだが「もう一度、自分の足で巡拝したい」と思いを新たに、15年がかりで踏査した実情をまとめた。A5変型判、オールカラー228頁、2千円（税別）。問い合わせは同出版会（048・711・8041）。（大脇和明）